

# 寄せられた意見

No. 89-1

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					

天塩川流域委員会事務局 御中  
清水委員長 様

私たちは11月8日に天塩川流域委員会に対して以下の3点について申し入れをしております。

1. 議事要旨をやめて、発言を全文掲載する議事録を作成すること。
2. 寄せられた意見に真摯に対応し、問題点を徹底的に検討するために専門部会を設置するなどして、委員会の運営を改善すること。
3. 次の委員会で申し入れに対する回答を図ること。

再三の申し入れにも関わらず、未だに改善されること無く委員会が進行されております。そこで、我々は

1) 議事要旨では不十分であり、全文議事録が必要という考えで第9回委員会傍聴記を作成しております。第10回委員会で第9回委員会議事要旨が公表されたので、これらを比較・検討し、やはり全文議事録が必要である等の意見書を送付させていただきました。お手数ですが、送付いたしました資料を各委員へご配布の上、是非とも次回の委員会で指摘いたしました問題事項の検討をお願い申し上げます。

また、北海道開発局へは

2) 第10回委員会傍聴記から、第10回流域委員会で論議された問題点について指摘し、我々の根拠を記した上で、2月15日までに下記の回答先までご回答いただくよう公開質問状を送付していますこととお知らせいたします。

2006. 2. 1

(社)北海道自然保護協会、サンル川を守る会、下川自然を考える会、名寄サンルダムを考える会、北海道の森と川を語る会、自然・文化ネットワーク、遊楽部川の自然を守る会、大雪と石狩の自然を守る会、旭川・森と川ネット21、環境ネットワーク旭川・地球村、(社)北海道スポーツイツシング協会

回答送付先:

社団法人 北海道自然保護協会 会長

# 寄せられた意見

No. 89-2

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					
<p>天塩川流域委員会への皆様へ（意見書）</p> <p>第10回の流域委員会を傍聴させていただき、議論の流れがわかるように、不十分ではありますが、別紙のような「傍聴記」をつくりましたので事務局を通じて送らせていただきます。本来、このような議事録は、人員と予算をもった事務局がきちんと準備して公開すべきものであり、私たちがボランティアでやるべきことではありません。また議事録が公開されていないことは、委員会の公開性・正当性・透明性を自ら半ば否定することにもなります。委員会の皆様におかれましては、次回からでも、委員会の責任において、きちんとした議事録の作成を検討していただきたいと存じます。 <i>※各委員へ配布願います。</i></p> <p>議事録全文公開の必要性——第9回委員会議事要旨の問題点——</p> <p>我々は議事要旨では不十分であり、全文議事録が必要という考えで第9回委員会傍聴記を作成した。第10回委員会第9回委員会議事要旨が公表されたので、検討した。</p> <p>議事要旨は40字x43行x7ページであり、傍聴記は45字x47行x26ページであった。傍聴記は議事要旨の約4.5倍の字数であった。このため、議事要旨では、短くなっているため重要なことが削除されている点が見られるので、指摘したい。</p> <p>(1) 不適切な削除・・・環境影響評価分析と整備計画とどちらを先に論議すべきか検討された後、傍聴記では委員長は「今後も平行して進めていくということで、今日のところは提案通りの進め方をお願いします」となっているが、議事要旨では「当初の通り議事を進めていく」とされていて、「平行して進めていく」という言葉が削除されているのは不適切である。</p> <p>(2) 開発局の説明が削除されている・・・傍聴記では8ページ下から約1/5から13ページ上から約1/5まで開発局の説明が記載されているが、議事要旨では削除されている。これでは委員会で開発局が何を説明したのか不明であり、その後の議論に役立たない。例えば、二風谷のヤマメ生息数の調査結果から「二風谷ダムによってサクラマスが減少したことはない、という風に考えております。」という重要な発言が記載されていない。重要な問題が削除されているのは議事録の意味がなくなる。開発局の説明も全文掲載すべきである。</p> <p>(3) 議事要旨が短くなっているため発言が正確に記述されない・・・例えば、議事要旨の●天塩川水系河川整備計画についてのすぐ下に6行の文章があるが、これは委員の発言である。傍聴記では28行となっている。両者を比較すると、傍聴記では委員の意見がいきいきと理解できるが、議事要旨では正確とは言えない。委員の後の委員の発言や、その後の委員の発言（議事要旨では13行、傍聴記では46行）、その後の水質などの委員の発言（要旨では9行、傍聴記では63行）などでも同様である。</p>					

※ 箇所は、個人情報等に該当するため黒塗りしています

# 寄せられた意見

No. 89-3

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					
<p>第10回の委員会での議論を聞き、私どもとしては、以下の3点について、次回の委員会でさらに議論を深めていただきたく、要望するとともに、開発局に対しては、皆様が検討するうえでの基礎なる資料を、別紙のいような公開質問状としてお送りしましたので、次回の委員会までにあわせてごらんいただき、次回委員会で、これらの重要な問題について、さらに検討していただきたいと存じます。</p> <p>1：開発局は、サンルダムがないと、とくに人口・資産の集中する名寄市での、天塩川の氾濫を防げないと主張していますが・・・</p> <p>サンルダムによる当面の治水の目標流量は史上最大であった昭和56年の洪水で出た流量と同じです。</p> <p>ところが、名寄市上流の治水基準点である真蕨別において、史上最大であった昭和56年の洪水は堤防を越えていません。その後、25年間、開発局による河川改修が進んでいる現在、サンルダムがなくても、同等の大雨が降ったとき、天塩川は名寄市周辺ではまったく溢れないと推定できます。流域委員会では、この事実を重く見て、私たちが開発局への公開質問状でただしているように、いま、史上最大であり、また、いまの治水計画の目標となっている昭和56年の洪水時と同規模の大雨が降っても、名寄市周辺では天塩川は溢れないではないか、そのときのサンルダムによる水位の低減効果は？といった問題を検討し、サンルダムが名寄市の治水にとってほんとうに必要な不可欠なものかどうかを、じゅうぶん討議していただきたいと要望します。</p> <p>2：サンルダムによる天塩川水系のサクラマス資源への影響が問題になっていますが最新の魚道が設置された沙流川、二風谷ダムで、サクラマス資源に悪影響が出ていないからだいじょうぶ、と主張していますが・・・</p> <p>しかし、公開質問状で示したように、二風谷ダムの影響は、サクラマスに無視できない大きな影響を与えていると私たちは考えています。</p> <p>サンル川は遡上してきたサクラマスの産卵場所であり、その幼魚であるヤマベの密度は二風谷に比べて極めて高いので、ダムによる影響の深刻さについては徹底的に検討すべきです。</p> <p>天塩川資料集にサンル川の子マメ生息密度のデータが記載されているので、経年変化を調べてつくったのが図1です。サンル川における子マメの生息密度は平均すると、0.89尾/m<sup>2</sup>になります。二風谷ダム上流部のダム建設以前の値(0.059尾/m<sup>2</sup>)と比較するとサンル川の子マメ密度は約15倍にもなり、サンル川の子マメ生息密度が極めて高いことを示しています。サンル川にダムが建設されると、この高密度の子マメの生息密度が大きく減少することが危惧されます。</p> <p>また、サクラマスは重要な漁業資源です。天塩川も関連する、北海道の日本海側のサクラマス漁獲量を、農水省統計局のつくった水産統計で調べてみました(図2)。残念ながらサクラマス単独の統計はなく、カラフトマスと一緒にになったマス類の合計しかわかりませんでし</p>					

# 寄せられた意見

No. 89-4

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					

たが、日本海側ではカラフトマス漁獲量はサクラマスと比較して少ないので、図2に示したマス類の大部分はサクラマスと考えられます。

1960年代後半には10000トン近い漁獲があらいましたが、1970年に入ると急速に減少して、1999年には500トン近くに減少しています。おそらく多くの河川でダム、砂防ダムなどがつくられたため、サクラマスが上流の産卵場所まで遡上できなくなり、サクラマス資源が減少したものと推定されます。

今後、もっともサクラマス資源が豊富な天塩川のサクラマスに大きな打撃を与えるサンルダムが建設されると、日本海のサクラマス全体にも大きな影響が出る可能性が高いと思われます。漁業資源保護の観点からも、サンルダムの問題を十分に検討していただきたいと思います。

図1

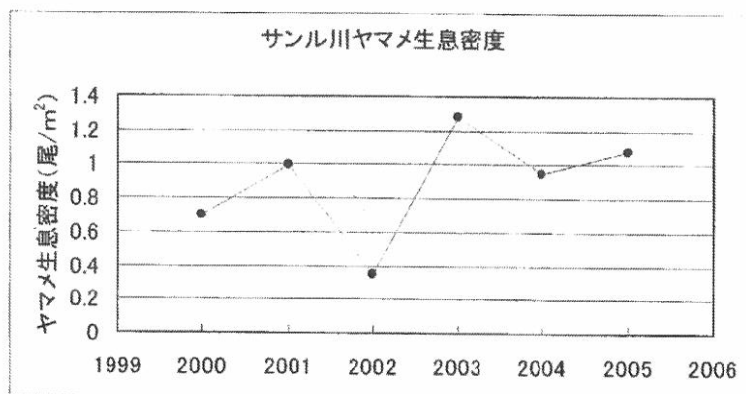
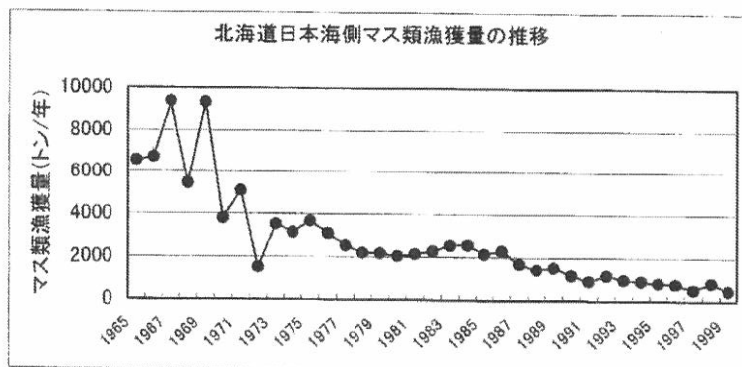


図2



## 寄せられた意見

No. 89-5

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					
<p>3:魚道をつくるからサクラマスはだいじょうぶ、という議論ばかりされますが……</p> <p>生まれてくる赤ちゃん（ヤマベ）は海に下らなければなりません。広大なダム湖ができてしまうと、流れのあるところだけで生息できるヤマベは、ダム湖を渡ることができず、海には降りられなくなってしまいます。アメリカではすでにこの問題が深刻になり、そのためにサンルダムと同じような大きさのダムが撤去され始めています。</p> <p>サンルダムは二風谷ダムのような、水をためない「流れダム」ではありません。ダムの上流には流れのない、広い湖ができてしまいます。こうなると、サクラマスは海に下れず、ダム湖にとどまってしまう「湖沼型サクラマス」になってしまう危険性があります。</p> <p>一般にダム湖や天然湖においてスモルト（幼魚）が降下した場合、湖沼型のサクラマスとなる例が知られています。資料 48-11-9 では、開発局は、「二風谷ダムではスモルトの残留魚や湖沼型サクラマスは殆ど確認されず、ダム湖を通じて降下している」と説明しています。しかし、この説明の根拠となったもとの調査報告の考察では、これは、「二風谷ダムが回転率 100 回以上の“流れダム”であるという特性」のおかげであると書かれています。</p> <p>サンルダムは H7 年の環境影響評価書において、回転率はわずか 3.2 回と記載されています。これは河川工学的には「とまりダム」であり、ダムの上流は湖になってしまうので、二風谷ダムのような「流れダム」効果はまったく期待できないと思われます。</p> <p>サンルダムによるサクラマスへの影響は、いくら魚道を設置しても解決できないことを、委員会では十分にご議論いただきたいと存じます。</p> <p style="margin-top: 20px;">注) 回転率 (回/年) = 年間総流量 (m3/年) / 貯水容量 (m3) ダムの水が年間何回入れ替わるかという指標</p> <p style="text-align: right; margin-top: 20px;">以上</p>					

# 寄せられた意見

No. 89-6

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					

## ダムの水位軽減効果

洪水名	観測所名	実績水位	岩尾内ダムの 効果量	サウルダムの 効果量
S48.8	真敷別	103.06m	—	0.3m
	菅平	17.16m	0.2m	0.2m
S50.8	真敷別	102.89m	—	0.2m
	菅平	16.76m	0.4m	0.1m
S56.8	真敷別	104.54m	—	0.2m
	菅平	17.24m	0.1m	0.1m

# 寄せられた意見

No. 89-7

受付日	H18. 2. 2	年齢		居住 市町村名	
件名					
<p>■■■■■ 様</p> <p>前回、質問のあった資料を送付します。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1 ボーリング位置図</li><li>2 降雨データ</li><li>3 ダム効果量</li><li>4 ダムサイト航空写真</li></ol> <p>サンルダム建設事業所 ■■■■■</p>					

※ ■■■■■ 箇所は、個人情報等に該当するため黒塗りしています